

# ひとつひとと通信

2020年8月19日発行

209号

「ひとつひとと通信」は  
略してひとつつう。  
いつも読んでいます。  
ありがとうございます。

こんなにちは！平川です。コロナの影響で家にいる時間が増えてから、映画をよく見るようになりました。アマゾンプライムへ加入し、月に7、8本見てします。そこで先日見た映画の感動が冷めやらぬうちに、紹介します。では今月もよろしくごいきましょう！

## ワンダー君は太陽



(あらすじ) 10歳のオギーはスター・ウォーズが大好きで、宇宙飛行士になるのを夢見る普通の男の子です。ただ普通の子とちょっと違うのは、遺伝子の疾患(トリーチャーコリンズ症候群)で人とは異なる顔で生まれてきました。外に出る時は、宇宙飛行士のヘルメットをかぶり、顔を隠していざギー。これまで27回もの手術を受けたため、学校へは行けず、ずっと自宅学習を続けていました。しかし母のイザベル(ジュリア・ロバーツ)は、このままでいけないと、夫の反対を押し切り、学校へ行かせることを決意します。そして登校初日、「神様」息子を守そ」と父、母、姉の

三人から見送られ、不安とうな聱ぎーは、一人門をくぐります。しかし母の不安は当たります。生徒たちからは遠巻きにジロジロ見られ、誰からも話しかけられず、ドッヂボールでは大勢から標的にされ、ランチも独りぼっちでした。しかしどんなにいじめられても、オギーは学校へ行きます。そんなある日、オギーに初めて、ジャックという友達ができました。次第に、お互いにかけがえのない存在となっていましたが、ハロウィンの日、ある出来事が起きます…。



(感想)印象に残ったシーンから、2つご紹介します。まずは登校初日の夜、夕食事のことです。「学校はどうだった?」との母の問いによかった」としか答えない暗いオギー。はじめを家族は察します。食事もそこそこに、逃げるよう部屋へ。このままではいけないと、夫の反対を押し切り、学校へ行かせることを決意します。そして登校初日、「神様」息子を守そ」と父、母、姉の

醜いの?」と、すとんと母は言います。「人の顔には、印があるのよ。僕は人の未来を示す地図なの。あなたは人の過去を示す地図なの。あなたは絶対に醜くないわ」と、つまりオギーの顔は何度も手術に耐えた勇気の証であり、未来は心が創るということです。母の深い愛情に感動すると同時に、相手を認める二つの大切さに気付かされます。オギーが独りぼっちでランチを食べている時、そのデブル、ジャックというクラスメイトが一緒に食べようと来たシーンです。ランチを食べないオギーに、ジャックが聞きます。「なぜ、食べないんだい?」するとオギーは、「亀みたいいな食べ方なんだ」と返します。おそらくオギーは手術のせいで、上手に物が噛めなくて食事をするのが、恥ずかしい。だから人前でランチを食べないのでしょう。それを聞いたジャックは何と言ったと思いますか?もし私がジャックの立場だったら、「そんなの気にすとんがよ。一緒に食べようぜ」と言うのが、闇の山でしょう。しかしジャックはこう言

ふたのです。「まさかよ。僕もなんだ」と。そしてしゃむしゃと汚く食べ始めたのです。まるで龜のように、それを見たオギーはケラケラと笑います。オギーを安心させようと、自分を卑下し笑いを誘ったのです。こんな行動が、誰に対しても、自然に出来る人間になりました。強く感じたシーンでした。さて実はこの映画を見るまでは、同情で涙を誘う映画かな。と思ってしまいました。とんでもありません。まったく違っていました。というのも、オギーは、本当に明るい。そして実はこの映画を見るまでは、同情で涙を誘う映画かな。と思ってしまいました。とんでもありません。またく違っていました。僕もなんだと。そして感動のラストへと切り開いてきました。少年なのです。まるで太陽です。オギーの入学で、同級生たちは、どんどん変わります。オギーは自分で運命を切り開いてきました。けれども大切なことが描かれました名作です。ぜひお子様

